

ふれあい情報

速報

■発行 日本高齢・退職者団体連合(退職者連合)
 ■発行人 羽山 治美
 ■連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
 Tel:03-5295-0507 Fax:03-5295-0541
 <e-mail>taisyokusharengo@sv.rengo-net.or.jp

2012年10月5日(金)

第155号

(速報の記事・写真の転載は自由。データが必要な場合は送付可)

連合第63回中央委員会

「300万退職者連合建設」に向けて支援を機関決定

「生涯組合員構想」から実践段階へ！

■第3号議案「2013年度活動計画」

■第5号議案「1000万連合」実現に向けた今後の対応

「退職者連合300万アクションプラン」の推進への協力と連携にさらに務める—を

満場一致で承認!!

連合は10月3日、都内で開催した第63回中央委員会で連合が取り組む2013年度活動計画を決定しました。その中で退職者連合が進める300万組織建設に向けた「退職者連合300万アクションプラン」について「推進への協力と連携にさらに務める」とした取り組み方針を満場一致で承認しました。

連合第63回中央委員会では来年の参議院選挙、総選挙での民主党勝利の意思一致を行った。写真は連帯のあいさつをする野田首相。(3日、都内)



現退一貫で組織拡大を

今年は大大会から大大会までの中間年にあたり、第63回中央委員会は連合定期大会にかわるものとして中央委員、特別中央委員、役員、本

部事務局など約320名が参加して開かれました。

中央委員会では、古賀伸明会長の主催者代表あいさつの後、本部を代表して2013年度活動方針案を南雲弘行事務局長が提案しました。まず

南雲事務局長は活動計画の総論として①東日本大震災の復興と再生、②働くことを軸とする安心社会の実現、③すべての働く者の処遇改善、均等・均衡待遇実現、④来年の第23回参議院選挙、第46回総選挙の

取り組み、⑤公正なグローバル化を通じた持続可能な社会の実現そして⑥1000万連合を展望し、社会的インフラとしての運動の推進の6点をあげ、とくに1000万連合の実現については、全国260地協のネットワークで地域に根ざした顔の見える連合運動を展開するとともに労働者自主福祉事業団体をはじめ、志を同じくする幅広い人々と連携し、労働組合としての社会的役割を發揮していくと強調して退職者連合の取り組みにも期待を表明し、退職者連合の組織拡大について「現退一貫で取り組む」と述べました。

活動が前進と評価

活動計画の各論で退職者連合に関係した箇所は、まず「その1」の中で運動方針前半期(2012年度)の主要課題として「(3)退職者や年金生活者を対象とした組織化プランの策定に着手する」としたことの結果について2012年度の取り組み実績として以下のように記述されています。

“③「退職者連合300万アクションプラン」策定にむけた協働活動の強化により現退一貫の活動の前進が図れた”

そして2013年度方針として“「退職者連合300万アクションプラン」の推進への協力と連携にさらに務める”としています。

組織拡大は手段

第5号議案では、「1000万連合」実現に向けた今後の対応について具体的な取り組みを明らかにしています。とくに退職者連合としても確認する点は、「組織の拡大は手段であって目的ではない」ということです。連合の目的は2つある

とし、1つは「働くことを軸とする安心社会」の実現、2つ目は集団的労使関係の外にいる4,500万の未組織労働者の組織化です。そして組織化における基本姿勢として、「組織の拡大に加えて、組織強化という観点の重要性を基本認識とする」とし「拡大する“数”に加え、拡大した後の“質”の確保も踏まえた対応を前提に取り組んでいく必要がある」としています。

まさに退職者連合においても組織強化と拡大を一体のものとして取り組むとともに強化・拡大の取り組みの過程そのものが退職者連合の運動であることを認識する必要がありますといえます。

.....

愛媛高退連・学習会

地元選出の国会議員も参加して連携とる

現在、退職者連合の2012年度対政府要求の実現に向けて全国の地方退職者組織が軸となつて地元国会議員要請行動が取り組まれています。愛媛県退職者連合ではこの取り組みを学習会と関連づけて実施しました。以下報告です。

愛媛高退連の今年の学習会は、例年同様3ブロック(東予=新居浜市、中予=松山市、南予=宇和島市)に分かれ9月25~27日までの3日間、行われました。3会場はいずれも満員の盛況で、あわせて約280名が参加しました。3会場の学習会は、愛媛高退連の織田等事務局長の司会で始まり、井

上浩一会長のあいさつの後、「退職者連合の課題と今後の取り組みについて」と題して退職者連合本部の木村寛事務局次長がそれぞれ約80分の講演を行いました。

その後、地元選出の民主党衆議院議員3人(東予=白石洋一氏、中予=長江孝子氏、南予=高橋英行氏)から講演がありました。3議員は、事前に愛媛高退連から要請されていた2つの課題(後期高齢者医療制度廃止問題と年金課税問題に対する見解と決意)について国会や民主党内での議論の経過を報告するとともに今後の決意を述べました。

木村次長は「3議員は、いずれも資料を添えて具体的に話されました。国会議員の話が通り一偏のあいさつでなく焦点が絞られた話であったためか参加した会員の関心も高く、今年こそこれらの課題は前進するのではないかとの確信をもったのではないのでしょうか」と学習会と国会議員の関連を有効に結びつけた主催者の準備と工夫、配慮に感心していました。

▽118名が参加して開かれた中予地区学習会と講演する退職者連合の木村次長(写真中)。(9月25日、松山市)

